

河内晩柑の寒冷紗被覆による無核果技術

農業研究センター 天草農業研究所

研究のねらい

河内晩柑は、甘夏ミカンなどの中晩生カンキツと隣接栽培すると有核果が多くなる欠点があるので、開花期間中に寒冷紗被覆することにより無核果技術を確立する。

研究の成果

- 1.河内晩柑の着果率は、自然受粉52%、甘夏ミカン受粉69%と比べ、寒冷紗被覆は41%やや少なかった。しかし、着果過多の場合は摘果が必要となり収穫量への影響は少ない。
- 2.隣接樹の無被覆樹の大橘、甘夏ミカンは有核果率が高いのに比べ、開花期間中に寒冷紗被覆すると100%無核果であった。したがって、開花期間中花粉を媒体する昆虫から寒冷紗で隔離することにより無核栽培は可能である。
- 3.寒冷紗被覆による無核果はやや小玉であるが果肉歩合が高く、糖度の差はなく、クエン酸が低いので食味は良好であった。
- 4.栽培上の注意点として、無核果はやや小玉のため、早期摘果(6月下旬～7月上旬)と適正摘果(80～100枚に1果)により果実肥大を促す必要がある。

第1表

結実性調査

1993年

区分	着果率の推移 %				12月着果率%	収穫果率%
	5.31	6.15	6.30	7.30		
除雄区	38.5	27	18	18	15.5	15.5
自家受粉区	21	19	0	0	0	0
甘夏ミカ受粉区	90	72	72	72	69	69
自然受粉区	75	67	54	52	52	52
寒冷紗被覆区	68	59	44	41	41	41
果実袋掛け区	73	54	34	34	34	34

第2表

寒冷紗被覆と無核果率

1992年

品種	区分	河内晩柑との距離m	有核果数	無核果数	無核果率%
大橘	寒冷紗被覆区	1	0	229	100
	寒冷紗1/2被覆区	1	0	221	100
	無被覆区	1	224	59	20.8
	無被覆区	5	113	65	36.5
甘夏ミカン	寒冷紗被覆区	0.5	0	88	100
	無被覆区	0.5	28	60	68.2

第3表

果実の大きさと果実品質

1992年

区分	1果平均値 g	果実の大きさ [割合]				果肉歩合	糖度	クエン酸	糖酸比
		250g以下	250~300	300~350	350g以上				
寒冷紗被覆区	296.6	27.3	23.9	29.5	19.3	66.2	11.3	1.24	9.11
無被覆区	318.2	17.5	20.7	35.2	26.6	62.4	11.3	1.30	8.69



写真 河内晩柑の寒冷紗被覆